Dグループ

森田寧子（丸内中）　坂下雅子（御幸中）
橋本美幸（南部中）　飴谷礼子（松陽中）
宮崎晃子（芦城中）　西田和代（板津中）
北　　晶（安宅中）　源　和美（中海中）
川崎和美（国府中）　谷口恵美（松東中）

未来を自分らしく生きてゆくために

～親離れ・子離れの準備を始めよう～

＜はじめに＞

私たちが生きる現代社会は、これまでにない急激な変化の中で、国際的には環境・食料・人口・エネルギー問題、国内では超高齢化社会とそれに伴う社会保障など解決すべき大きな問題に直面している。今、未来を背負う子どもたちに求められるのは、こうした時代に対処し、生き抜く力である。現代を自分らしく生き抜く力をつけるためにはどうしたらよいのか。

１、今の子育てと昔の子育て

（１）聞き取り調査より（２０～９０代・男女）

	昔　過去	今　現在
学校行事・活動	・母親中心（祖父母世代） ・口出ししない	・父母ともに関わる
育児	・母親中心 ・子どもと遊んだことがない男性がいる ・同居の姑の意見に左右される	・家族の役割の中で協力する ・子どもの自主性を尊重する ・何でもしてあげたい ・何でも知りたい
家事	・女の仕事（母親または祖母）	・核家族　→　家族で ・同居の場合　→　母親 または祖母
勉強・余暇	・勉強が大事 ・しつけは厳しく	・勉強、スポーツ なんでも経験させよう
親子関係	親は親、子は子	友達親子

（２）社会的な背景と要因

～今の子育てと昔の子育ての違いはどこからくるの？～

過去

子育ての始まり　数千万年前から

ヒト　20 万年前から

「肌でわかる」　自然＝無意識の中で育ててきた

現在

「ああすればこうなる」近代合理主義

例えば、「ボタンを押せば、風呂が沸く」生活

田舎でも、都市化・核家族化が進み＝なんでもコントロールできる

経済発展＝人間の進歩と混同している？

1990～　少子化　育児不安　青少年犯罪

子育て問題・教育問題が、社会問題**化**。

パラサイト・ニート・草食系など

→　親に対しても社会的な対策や支援が求められる

家庭教育振興　→家庭教育支援

子育ても「How to」に頼りたい！→「育児書」

しかし、書いてある通りには行かない。

・型にはめようとしても、そうはいかない。
・こどもは理屈だけでは対処できない。
・頭で考えても必ず答えが出るとは限らない。
・この厄介さ＝必ずしもマニュアルが通用しない！

子どもも親も、「子どもが育つ、子どもを育てる」ということを意識せずとも地域の自然や人間関係の中で育っていた時代から、意識的に「子どもが育つ、子どもを育てる」ということを方向づけたり、支援したり、つないだりしなければならなくなった。 しかし、単純にマニュアルが通用するものではない。

2．これからの時代に求められること

子どもの未来を具体的に描く＝未来に対する問いかけ

子どもたちが豊かに生きてゆくために時代に合った力

多様化する社会・予測不能な社会

↓

柔軟に対応できる力　判断力

自分らしく生きる力　表現力

自立できる力　行動力

３．親に求められること

（１）子どものありのままを受け入れる。

「良い子でも悪い子でも、とにかく大事な子！どんなあなたでも全面的に受け入れる」、「困ったときは全面的に味方する」という姿勢を示す。親の視点からは、親が子供を愛するのは当然と思っていても、子どもに対し表現しなければ判らないことが多い。

（２）自主性を重んじる。

ある一定の年齢にきたら、「信じて見守って待つ」。
親の好みや価値観で子どもを支配するのではなく、子どもの要求に応じ、意見を尊重し応えることが重要。普段から正面から向き合うことが必要。

微量の毒が薬になる！経験が　予測する力を育てる

「おとなの目から見てこどもに悪いことがあっても、それはこどもの成長にとっては必要な関所のようなものである。おとながやみくもにとりあげてしまうわけにはいかない―」
年代に応じて経験しておくべきことは経験させる。

悪いところはゼロに！　学校・家庭は安全！
「清く正しく　１００％善」
→かえって大けがにつながる。
・警戒心がない　無防備
・責任感のない子
・危険に対する想像力の欠如
→「安全」な社会（学校・家庭）からうまれた危険
EX. 転び方を知らない！けんかが少なくなった
→過剰な暴力、いじめが深刻に

学校への責任が問われる社会的傾向を背景に
子どもが、危険の予知力、抵抗力を高める教育はなおざりにされがち。

親の責任　**子どもを信じ見守ることがとても大事！**

自分で導き出す、体で覚える「知識と知恵」を得る場が必要
＝知識を身に着けられる場、
経験を得る場を子どもに与えること

（3）コミュニケーションを取る。

頭ごなしに叱ったり、注意するのではなく、子どもの言い分に耳を傾ける。
一見理不尽に見える同じ行動でも、背景にある気持ちによっては、同じ行動でも意味するところが異なり、肯定すべきことも多い。

（4）自分は役に立っているという実感を得る機会を奪わないこと

人は皆、誰かの役に立ちたいと思っている。「喜んでもらった、役に立った」という実感が、子ども自身の自己評価を高め、存在感を確立して行くのに役立つ。

（5）型に当てはめようとせず個性を尊重すること

平和な社会ゆえにおちいりやすい落とし穴として、子どもを自分の理想の型にあてはめようとする傾向にある。
しかし、全く同じ人間だけが集まっている社会など存在しない。
それぞれの個性があり、個性にあった自分らしい生き方を見つけよう。

つまり
「かわいい子には旅をさせろ」
親の我慢・自立が必要
子どもは親の自己満足の対象でない
親の人間としての成熟が期待される

子育てに見本はあっても手本はない。

4．親と子は合わせ鏡

子どもに求められる力＝親に求められる力
子が豊かに生きること＝親が豊かに生きること
合わせ鏡

「家族」のあり方が子供のすべてを決める
「子どもは親の言うこと不機嫌な口先の話や怒ったしつけから学ぶんじゃない。親のしていることを見たり感じたりして学ぶんだ。」

乳児の頃は、決して肌を離さず
幼児の頃は、肌を離して、決して手を離さず
子どもの頃は、手を離して、決して目を離さず
青年期には、目を離して、**決して心を離さず**